

みんなの知りたい なんでも Q&A



長谷川学芸員

徳島の産物といえば、スタチやワカメ、ハモなど、豊富な農産物や魚介類が思い浮かぶね。では、時代を遡（さか）のぼっていくと、どんな産物があったんだろう。今回は、古代の律令制（りつりようせい）のもとで、阿波から都に送られた産物について調べてみたよ。



今週のテーマは

古代の産物

文：徳島県立博物館・長谷川賢二学芸員
絵・デザイン：徳島新聞写真美術部・大塚吉雄



Q.産物を知ること、どんなことが分かりますか？

産物から、当時の農業や漁業、手工業の実態がうかがえ、古代の人々が、どんな生活していたのかということを知る手がかりになるよ。遠い昔の人々が身近に感じられるかもしれないね。



コラム

木簡の使い方をさぐる

ここで取り上げた木簡は宅配便のラベルのようなもの。では、どうやって荷物に取り付けたのか考えてみよう。写真①・②の木簡は、上部や下部に切り欠きがあるので、そこにひもをかけて使ったと思うよ。また、写真③の木簡は先がとがっているね。荷物に突きさして取り付けたんじゃないかな。

Q.古代の産物は、どんなものから分かりますか？

7~8世紀、阿波から藤原京や平城京といった都に、いろいろな荷物が送られたんだ。それらに荷札として付けられていた木の札（木簡）に書かれた字を見ると、どの誰が、何を送ったのかということが分かるんだ。ほかにも、10世紀にまとめられた法令書『延喜式（えんぎしき）』などにも、いろいろな産物が書かれているよ。



『延喜式』（江戸時代に出版されたもの、県立博物館蔵）

Q.古代の産物は、売り物だったのですか？

商品として流通したものではないんだよ。今でいう税金の一種なんだ。各地の産物を納める「調（ちょう）」、労役の代わりに布や米、塩などを納める「庸（よう）」などとして、都に運ばれたものが多いんだ。

Q.古代の産物は、どんな種類のものがありましたか？

木簡から分かるものとしては米やイノシシの干し肉、アユの酢漬け、海藻、アワビ、カツオなどがあるよ。また、奈良の正倉院には、阿波から調として納められた絹の布があるんだ。そのほか、『延喜式』を見ると阿波国に対し、蘇（そ）という乳製品の製造・納入が義務づけられていたことも分かるよ。



正倉院宝物殿の絹の布（複製）



布に書かれた文字の周辺部分。732（天平4）年に阿波から調として納められたことが分かります。



① イノシシの干し肉を送った木簡（複製） 県立博物館蔵



② カツオを送った木簡（複製） 県立博物館蔵



③ 米を送った木簡（複製） 県立博物館蔵

どんなふうに使っていたのか考えてみるのも面白いね。

